お母さんの読書會
「こだま会」一年の歩み

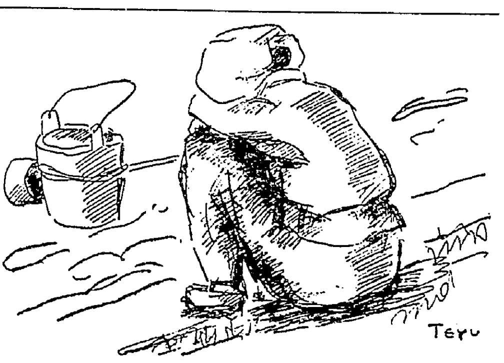
これは読書シーズンに贈る主婦たちのたくましい生活への息吹きである……。「こだま会」が誕生してはや一年の歳月を経た。いまこの読書グループを育てた十名の主婦たちは一年の困苦をのりこえて安定したグループ運営まで漕ぎつけているが、それと反対に読書を通じて知識のかん養人間づくりにますます真剣となつて家事の余暇をみては嬉々として取組んでいる。

この読書グループ「こだま会」が誕生したのはちようど一年前の十月末、この頃たまたま朝日新聞に東京中野区の高山さんがリーダーで十四、五名が読書会「山彦読書会」の記事を目にしたのがはじまりである。この記事をみて緑ガ丘桂町では主婦会の鳥口さんらが私たちもこんな会をつくつて勉強したらという提案でたちまち十名位が賛同してできたものだつた。男もそうだが、ことに女はなかなか暇がなく本を読むことなどは高嶺の花のように現実から遠のけている場合が多い。それでこの会を通じて廻りばんこでお互が読み合い、少額ではあるが金を出し合えば新しい本も買えるというのが魅力でもあり、張り合いもあつた。以来毎月十日、二十五日にはできるだけ集つて本を読み合い反省会を催した。お互いが読み終つた本について感想を述べ、意見を出し合うのも初めの間は何となく意見も少かつたが、いまでは回を重ねるごとに知識の積重ねと相まつて貴重な意見が続々出てき、集るのが楽しみになつている。最近読んだ本は「女の愛と幸せ」「挽歌」「娘は娘母は母」「愛は死を越えて＝ローゼンバーク」などが挙げられる。話は始めに戻るが、この会を発足させるとき、まず東京の山彦読書会に問合せたところ「やつてみなさい良い勉強になりますよ」と元気づけられたのに勢を得てスタートした。以来桂と東京とは今日まで交流が続いており、東京からの有益な本の紹介がきたりして親切な指導もつづけられた。今夏母親大会に出席した会の一員永井さん（主婦会本部役員）はついでにと余暇をみて東京の山彦会へ支部教宣部長の小西氏と立寄つた。リーダーの高山さんは若いときから労働運動に熱心な人と判つたのもこの時だつた。代議士の田中稔男氏との学友だということも知つた。山彦会では緑ガ丘と交流するようになつていままで無関心だつた炭鉱のことにも強い興味を持ち、いまでは炭鉱のことも一心に勉強をしているといい、この日ほんものの炭鉱マン小西氏から説明を聞き大喜びだつた。

「こだま会」の名前もついさいきんに名づけられたもの。主婦会の白鳩をとつて白鳩会にしたらなど二、三の候補名が挙げられたが、山彦にこだまするというのでこだま会になつた。いまでは反省会の申合せ事項として、

一、この会はだまつている人がないように遠慮なく意見を述べること。
二、納得の行かないときはその場で問い正すこと。
三、意見が違つてもお互いに感情に走らず後に残さないこと。
四、時間を有効に使うこと。

などがきめられ、反省会にくるときは必ずノートを持つて書き残すことや、発表して研究して行くことなどが約束されている。いま毎月五十円を出し合い、本を月に二冊宛購入しているが、新しい知識欲に燃える主婦たちの前途は、希望の火のように燃え上つている。なおこの「こだま会」と同じくさいきん同じ地域で他のグループが結成されようとしており、こんどはグループ同志の交流を図つて勉強したいと主婦たちは張切つている。



いとなみ

にわか百姓の苦しさは土になじめないところから始まる。家計の苦しさをオギナフ一念から妻のささやかな創造が、猫のせせこましい庭で始つた。

土になじめない苦しさは奇態なまでに妻をいためつける。

夕餉時ジツとぼくの顔をのぞきこんで「何植えようかしら」という。

∧そうだ明日は日曜だつたつけな、何かの用事をネツゾウしなくては∨

土のレクレーションなどと、とんでもないことだ―

或る人が私に語つた。新婚だというのに。

三川　武松輝男

七五三

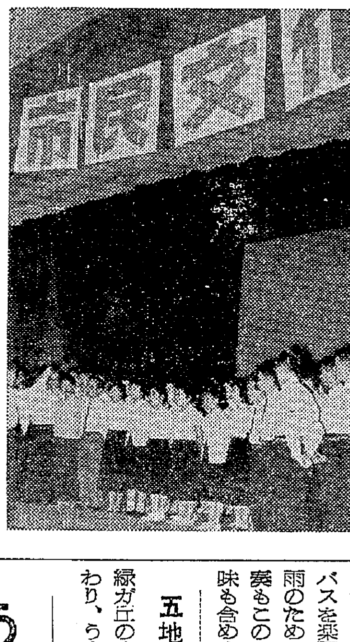
晴着を着てうれしいなア（大谷社宅で）

十一月十五日は七五三のお祝いです。この日三才と五才の男の子、三才と七才に当る女の子は新しい着物を着飾つて「うぶすなもうで」をします。子どもがすこやかにそだつてくれますようにとの親心からでたお祝いです。ところでこの七五三のお祝いには、子供たちが長いフクロにちとせアメを入れて持ちあるきますが、このちとせアメは、アメの中でも長い歴史をもつています。このころのアメはいまのように菓子ではなく砂糖のかわりでした。アメが現在のように菓子として売られたのは、徳川時代になつてからのことです。アメ屋は歌をうたつたり、手ぶり身ぶりでおもしろおかしく町中を歩きまわつては子供を集め、アメを売つたものです。江戸時代になつて江戸の七兵衛というアメ売りが「ちとせアメ」または「寿命アメ」というのを売りだしました。これは千年も命を伸ばすアメ、という意味です。とてもおめでたい名前なので、いつのまにか七五三とむすびついてしまつたのです。

各地で多彩な催し
文化の日に繰展げる歌踊り

十一月三日は文化の日、この日大牟田では大地評を中軸とした文化祭が市民会館で行われたが、各地域でもこの日を祝してさまざまの文化の催しを行い、さながら文化ページエントの観を呈した。平和こそ最大の文化であり、文化活動の底にあるものは人間の目覚めにほかなかろう。これは必然的に階級闘争につながる意味においてもこんごの文化活動に大きな期待が待たれている。

犬を乗せた人工衛星第二号の打上げが報ぜられた文化の日の十一月三日に、市民会館で市民文化祭が開催された。近県の合唱団の参加を得て、市内のうたごえサークルを中心に、各文化団体が日ごろの練習をつんで来た。その成果を発表し、炭都の文化水準の一つのバロメーターを示すものとして注目された。働くものの健康で明るいすぐれた文化を創り出そうという気持が、正午から午後十時半まで、会館にぎつしりつまつた観客にもみなぎり、文化祭を成功させた大きな要素となつた。三鉱関係からは、宮浦、本所、三作の各合唱団のコーラス、緑ガ丘劇団「なかま」の「原爆許すまじ」が参加し、その力演が観客の感動を呼び、劇団「表現座」の「千羽鶴」と共に改めて原水爆禁止の誓いを固めさした。熊本、佐賀、飯塚、吉井、福岡、久留米の各合唱団に伍して、歴木水曜、グリーン、教組、東圧合成の各合唱団、さらにフオークダンス協会、市労連青婦部が踊りで、彩どりを添えた。更に、先の七月東京公演で好評を博した、井形バレー研究所のバレー「石炭」は働くやまの男の生活と感情を力強く表現し、拍手を浴びた。大牟田うたう会時代から現在の巾の広い、奥行きのあるコーラスに育てあげたコーラスのなかまたちはどんな気持でこの成功を見たであろうか。ただ、電化劇団の「赤い陣羽織」が連絡の不十分さから途中で、中止しなければならなかつたこと、三川合唱団が出演申込みをしていて当日棄権したこと、観客の一部（高校生と見えたが）から下卑た野次が飛ばされ、演ずる人や、観る人の気持を乱したことは、残念なことだつた。ともあれ、この文化祭を足がかりにして、文化不毛の地といわれる大牟田の文化の芽生えがさらに大きく広がつて、来年、再来年には真に楽しい大きな文化祭になるだろうという気持で、胸をふくらまして帰つたのは記者一人だつたろうか。（写真はコーラス）

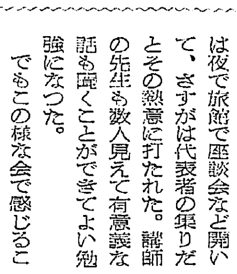


楽団童謡を力奏

この日三川支部野添分会でも終日文化行事で賑つた。野添では中学生と主婦会が共催になり小学生と地域の文化公演を行つた。この日のために小中学生のよい子たちは習字、図画の力作を持寄り野添保育園を会場として一大作品展示会を開催、図画作品のごときは三、四百点も集り盛況をきわめた。一方主婦会でも子供に負けじと生花の展示会をひ露、闘争時の鉢巻姿とは打つて変つた日本趣味の奥床しさを見事に発揮して、人々の目を奪うには十分の出来栄えだつた。夜の部はとくに三川コールマインのおじさん達にお願いして楽団演奏をやつてもらつた。会場を事務所の広場に設け、天幕を張り、テープであでやかに飾られた中で午後五時半から八時ごろまで楽しい音楽の調べに耳を傾けた。楽団ではとくに児童が対象のため流行歌曲をやめ曲目のだし物に苦心したが、このため苦労してつくつた童謡の接続集を仕上げて初公開した。約二時間半三十曲余を演奏し、途中でよい子たちばかりのど自慢も飛び出す豪華プログラムであつた。なお野添には待望のバス開通もみられたが、当初の案としては初のバスを楽団で迎える予定だつたが雨のためできず、こんどの楽団演奏もこのバス開通を祝うという意味も含められて行われた。

五地区で共催

緑ガ丘の山吹、敷島、弥生、ひまわり、うぐいすの五地区分会では社宅十周年記念を祝つてこの日緑ガ丘講堂で文化祭を催した。各分会この日のために練習に余念がなかつた得意のノドや踊りをひ露、演芸、コーラス、歌、踊りとバラエティショウを行い、やんやの拍手を浴びて楽しい一日を過した。



報告会に想う

去る十月二十日、二十一日と福岡県下母と女教師の会が幸いにも大牟田で開かれ、折からにぎわつている博覧会に一層のはなやかさを増した。各郡市から集られたお母さんと先生で会場もぎつしり、夜は夜で旅館で座談会など開いて、さすがは代表者の集りだとその熱意に打たれた。講師の先生も数人見えて有意義な話も聞くことができてよい勉強になつた。

でもこの様な会で感じることは、お母さん達の発言が非常に活発ではあるが、あまりにも自分のこと、自分の子供のことにばかり集中されていないかということである。私どもはまだまだ世の多くの不幸な子供や母親がどうしたら幸せになるか、何が世界の平和を妨げているか、それを話し合つて実行に移さねば、会を何度持つても無意味ではなかろうかと思われる。

ある先生は、こんな会を発展させるには、各地区で報告会をより多く持つべきだと話されたけれども、この報告会に集まる私どもが演説者の胸中を察し温い気持をもつて聞いてこそ始めて成功するのではなかろうか。

報告をする人の中には話の上手な人もあれば、初めてでそれはそれは苦心して少しでも判りやすく説明しようと胸をいためている人もあるかも知れない。

この人達の事を思うならば聞く方もその誠意に報いる聞き方が必要である。この前、母親大会の報告会で泌みじみ思つたことであるが、勝手に私語し、ひどい人は雑誌を読んでいる人を目のあたりに見て、ごく一部の人だつたかも知れないけれども、あの日のことを思い出す度に腹立しくなつて来る。話す人がどんなに下手だと思つても聞き手が上手であれば話が生きて来るし私どもはもつともつと反省して上手な話の聞き手にならねば恥しい事である。

今度また東京の炭労大会や宮崎県の全九州母と女教師の会に、三池主婦会からも数人の代表を送つているので、何れ帰られたら報告会が各地で持たれる事であろうが、私どもは今度こそよく話をかみしめて聞いて、何か一つでも自分のものにして、そして幸せな世の中を作るために努力して行きたいものである。

外来　中山　初美

四山連勝とぐ
荒地評ソフトボール

荒地評として行われている地評一本のスポーツ競技ソフトボール大会が、昨年の第一回に引つづき第二回が去る十月二十七日、参加十四チーム（含女子チーム）で華々しく行われた。球場を四山グラウンド（男子）と大島社宅広場にあて、各単産ともより抜きの選手を送りこみ、熱球を秋空にカツ飛ばして終日力のあふれる競技を行つた。傘下各組合を通じての参加だけに勝負だけの目的にとらわれず各組合の交流、親睦という意味も大いに含まれていて試合を通じて大いに効果があがつたものと思われる。当日の成績つぎの通り

優勝四山　二位市職　三位市教組
自労の各チーム（以上男子）
優勝自労　二位市職　三位市教組
（以上女子チーム）

なお優勝チームには朝日新聞社から優勝カツプとメダルがそれぞれ贈られた。

うれしいサービス
革商連で奉仕値週間

労働者とともに歩む革商連として全国的な注視を集めている同連盟では、こんどの秋季闘争にてもすでに闘争態勢を確立、労商提携の実をあげているが、こんど十一月十四日から二十日まで〝労商提携実践週間〟と銘打つサービス奉仕にのり出すこととなつて早くも注目されている。この期間は現金店、指定店を問わずサービス奉仕週間として左記の品物を破格の値段でセールすることになつている。

【五分引の品種】
呉服、フトン、服地洋装、既製服、既洋服、洋裁店、毛糸、洋品雑貨、帽子、カバン、靴、履物時計、電器具、ラジオ、カメラミシン、金物、陶器、家具。

【三分引の品種】
運動具、食料品（味噌、醤油、乾物、青果、鮮魚、精肉、菓子茶）自転車、化粧品、小間物、燃料、その他（紙、文具、玩具印房、印刷、仏具、釣具、薬品クリーニング、染物、畳）

なお、この価格は期間を過ぎたなら元に復することになつています各加盟店は店頭にポスターをてん布してあり革商連配布によるビラ持参者に限り奉仕価格で販売する（メーカー、特価品は除く）